

## 2020年10月14日ウェビナー 質疑応答

### <吸収（中和）について>

質問：吸収源の例を多く教えて下さい。森林植林やブルーカーボン効果、ミドリムシの培養による吸収も含まれますか。

回答：まだ詳細な定義はできておりませんが、加えてCCS、CCUSなども含まれます。(Q&Aボックスでリアルタイム回答)

質問：森林を中和と整理した一方、REDD+を補償と整理したのは、REDD+を削減取組みと整理したためでしょうか？

回答：REDD+については、減少を止めるという意味で、排出を避けるという整理となります。一方で、植林は吸収となります。ここはまだ完全な整理はできておりませんが、これまで出された情報をもとに、例示した次第です。今後のGHGプロトコルやSBTの資料をご参照ください。

### <カーボン回収・リサイクルについて>

質問：エネ庁などでカーボンリサイクルという方向性が打ち出されていますが、どうお考えでしょうか？

回答：リサイクルについては、他のSDGsを損なわない限り、有効であると考えております。

質問：CO<sub>2</sub>の回収は今の技術で容易に実現できますが、回収したCO<sub>2</sub>をどうするかが課題ですよね？

回答：その通りです。その際には他のSDGsとの関連が重要だと考えております。

### <オーバーシュートについて>

質問：オーバーシュートすることなしにという意味が分かりません。1.5°Cより下がっても、むしろ喜ばしいことではないのでしょうか。

回答：排出量のオーバーシュートですので、一旦増加するという意味です。1.5°C経路よりも大きく排出量が多い状態という意味です。

### <クレジット、電力証書について>

質問：国内のグリーン電力証書、J-クレジットの取り扱いはどのように扱われるのでしょうか？

回答：再エネ属性証明については、GHGプロトコルスコープ2ガイダンスに基づき、スコープ2についてゼロ排出電力の消費の証明となります。グリーン電力証書、再エネ起源のJ-クレジットは、現在それに該当しています。他のベースライン&クレジット型については、追加的削減のみに活用いただけますが、1.5°C経路の実現には活用できません。

<削減貢献量>

質問：SBTでのAvoided Emissionsの取り扱いはどうなるのか？

回答：Avoided Emissionについては、ゼロを目指す中で、好ましいものではあるものの、自社の排出を相殺する目的では使うことができません。

<電力メニューについて>

質問：カーボンニュートラルについてご質問なのですが、現在よく使用されている「実質再エネ電力メニュー（化石電力+証書など）」はカーボンニュートラルを目指す上では対象外となる（カーボンニュートラルとみなされない）ということでしょうか。

回答：GHGプロトコルスコープ2ガイダンスに適合している証書であれば（つまり、再エネ属性証明であれば）スコープ2削減に活用できます。

<カーボンニュートラルとネットゼロの違い>

質問：ネットゼロとカーボンニュートラルの違い、マイクロソフトのカーボンネガティブの定義をお教え頂けますでしょうか。

回答：今回SBTイニシアチブが出した定義に基づくと、ネットゼロは「1.5°C経路で削減し、削減しきれない分は中和（吸収）する」というもので、削減クレジットなどはその達成には活用しないものとしています。一方、各企業の定義によりますが、カーボンニュートラルといった場合、クレジットも活用している場合が多くみられます。